

高知県立坂本龍馬記念館・現代龍馬学会

私のテーマ

受け継いで、実践！

「まさしく“龍馬スピリッツ”」

渡辺 瑠海



最近、親による子供の虐待事件が後を絶たない。事件のニュースを聞いたたび、私はいつもある方のことを思い出す。女性のためのDVシェルター運営の先駆けとなった故・武田紀（とし）さんだ。武田さんの「師匠」は児童養護に一生を捧げた「児童福祉の母」と呼ばれた「坂本龍馬の姪・岡上菊栄」である。2007年5月、初めて武田さんにお会いした。

「岡上菊栄の「バトン」を継いで」

岡上菊栄は80歳まで児童福祉に命を注いだ。親に捨てられ世間に見捨てられた子供たちを、貧しくとも愛情いっぱい育て抜いた。武田さんは、菊栄さんと一緒に過ごした日々をまるで昨日のことのように思うと言う。

武田さんが菊栄のもとで児童養護に奔走したのは、昭和20年。彼女がまだ「子供との接し方」さえ知らない20歳の頃だった。たまたままな心の傷を抱えた子供たちを前に戸惑う武田さんに、菊栄は「これ遺言、これ遺言」と口癖を言いながら人と人の平等な付き合い方を徹底して教えた。たとえ小さな豆粒ひとつでも、施設の子と我が子を分け隔てなく渡す。徹底した「平等」と「博愛」それが「岡上菊栄」の一貫した姿勢だったという。武田さんの表情はくつなくない。心服した者の安心感とでも言うのだろうか。

菊栄のバトンを受けて武田さんは40数年博愛園の園長を務めた。そして平成元年、取り組んだのは、ただひたすらに弱者の命を救う、日本でも先駆けだった女性専用のDVシェルター「青涛の家」の活動だ。国や県、市などの補助を一切受けず開設運営したのは、私利私欲のためではなくただひたすら傷ついた人をそととかくまう「居場所」を作るためであった。「青涛の家」は赤岡カトリック教会の草花が咲き乱れる敷地の奥に、ひっそりと建っていた。武田さんは博愛園で40年を過ごした後、昭和

た「そのとき私も神父も、彼女が死のうとする寸前に、自分たちのことを思い出してくれたことが本当にうれしかった」と武田さんは笑みを絶やさず、真夜中の一時近くに、武田さんと神父は車を飛ばして女性を迎えに行った。女性は救われた。シェルターで数日を過ごし、死ではなく、新しい人生の道に踏み出した。

とするケースが多いという。生真面目に社会と向き合い現実との段差に挫折する。拒食症、栄養失調になったり、孤立して引きこもってしまった。武田さんと神父は、そんな彼女たちに居場所を与え、我が子のように撫でさすり、愛を与え続け立ち直りを促した。

武田先生と二緒した部屋は、質素で昔ながらの応接間だった。洗いたてのレースのカーテン。玄関には、ほうきと雑巾、ちりとりがそと置いてあった。だが武田さんは「掃除機が大嫌いなんです」と言う。「今まで長い年月を大勢で楽しく暮らしてきましたが、そんな環境の中で自分自身本当は静けさを求めているのかもしれないね」その言葉に、ふと彼女自身の心に触れた気がした。

出会いの大切さ

和42年。ベルギーから来た故レオナルド・シモンズ神父とともに、昼夜を問わず夫や恋人からの暴力（ドメスティックバイオレンス）で心身共に傷ついた女性を無条件に受け入れ続けた。

「人生とは、心を縛る鎖を外す作業の繰り返しのようなものなんです」と武田さんは言う。執着のあるものを心からひとつひとつ外していかなければならない。しかしそれは必ず外れるもの。そのお手伝いができるなら幸せ

今この世の中が最も必要としていることではなかったかと思う。武田さんが菊栄から受け継いだ平等精神、そして人間への深い愛情。シモンズ神父と共に守り抜いた弱者救出の精神。これはまさに「龍馬スピリッツ」の本流だと思ふ。武田さんの心に菊栄が生きたように、今、私の心には武田さんのこんな言葉がよみがえる。「人生は、どんな人と交わるかで全く違ってくるものです。だから、良い人、たくさん出会いたい。会えてよかった。今日はしあわせの日」

「真夜中に女性から二本の電話がかかってきました。今から死のうと思ひ海にいるが財布にお守りがわりに『青涛の家』のことを書いた新聞の切り抜きを持っているのに気づいた。だから最後に電話をかけました」

シエルターに駆け込む人は一流大学を卒業して、キャリアウーマンで、社会のトップを歩いていたような人たちが、思いがけないことで挫折し、死を選ぼうとする

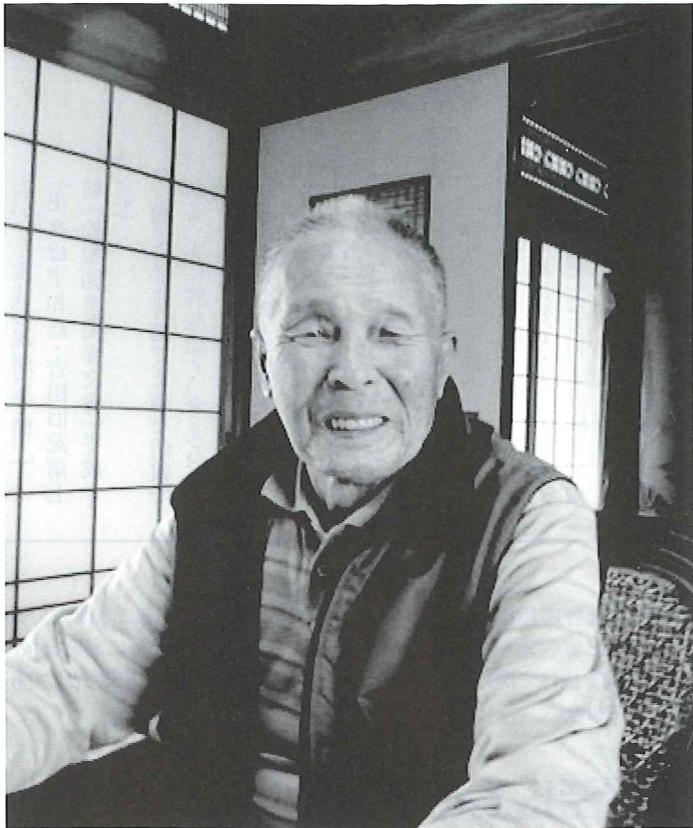
武田さんのしていることは、今この世の中が最も必要としていることではなかったかと思う。武田さんが菊栄から受け継いだ平等精神、そして人間への深い愛情。シモンズ神父と共に守り抜いた弱者救出の精神。これはまさに「龍馬スピリッツ」の本流だと思ふ。武田さんの心に菊栄が生きたように、今、私の心には武田さんのこんな言葉がよみがえる。「人生は、どんな人と交わるかで全く違ってくるものです。だから、良い人、たくさん出会いたい。会えてよかった。今日はしあわせの日」



「戦争は絶対いかんぜよ!」「子どもらに語り継ぐべし」 土佐弁交えて熱く語った2時間

岡田以蔵の子孫 岡田 義一さん

【インタビュー】
前田 由紀枝・学芸主任



幕末、悲劇の刺客・岡田以蔵4代目のご子孫が高知にいる。
岡田義一さん(84)は香美郡土佐山田町。時代は違えども、義さんもまた以蔵と同じく、壮絶な人生を走り抜けてきた。時代の証人である。戦争体験を乗り越え、大病を克服した末に到った岡田さんの境地。その向こうに見えた「日本の未来」について語ってもらった。

岡田以蔵4代目の岡田義一さん。大正15年生まれ、84歳。正確にいうと以蔵の実弟・啓吉の子孫である。岡田家初代、仁平が建てた代々の本家、岡田屋敷は義一さんの家のすぐ近くだ。

以蔵の母と妻のお墓は？

Q 以蔵の家は現在の高知病院に高知市相生町にあり、お墓は？
「そう。あの辺にはほんの最近まで木立があつた。祖父から聞いたもんです。一文橋のたもと、製材関係ばかりやつた記憶があります。そりゃあ盛況やつたそう。祖父は野菜を積んだ大車を大津の北浦あたりまで牽いて行つて、そこから舟に積み込み商いをしつたそうです。江戸口川の河口はちようど物資の集積場で、買い取り宿も多かった。江戸時代から似た感じだったかもしれんぞね」



Q 「以蔵の死」というのは残された家族にどんな影響を与えたのでしょうか？
「以蔵の父親・義平は慶応元年50歳で亡くなつてます。以蔵が慶応元年5月1日に首を斬られてるので、親として実の息子の始末書を郷土に提出させられた。その心労でしょう。わずか1ヶ月後の6月7日に亡くなつてます。以蔵の実弟・岡田啓吉は明治15年10月7日、39歳で。妻の母は明治38年に28歳で亡くなつてます。しかし不思議なことに義平も啓吉の墓も真宗寺山にあるのに、義平の妻(以蔵の母親)の墓が見つかりません」

運命の不思議さを実感

Q 以蔵の血を引く岡田さんの生い立ちに興味を覚えます。エピソードなど聞かせてください。
「私も以蔵も生まれ育ちは山田です。私はそりゃあ悪いことばかりする落ちこぼれでした(笑)。学校が大嫌いで、旧高知商業を1年で退学して、大阪に出て丁稚でもやろうかと思ひつたが、けん、その頃父が中国の新京で材木商をしていて、母に「丁稚に行くならお父さんのところへ行きなさい」と言われて、新京に行くことにしました。現地の商業学校に入つて、さて将来は何をやるか考えて、よし、商業デザイナーになろうと思つたんですよ(笑)」「
「スティーブ・商業デザイナー」ですか？
「予想外です。」

「ハハハ、学校の美術部に入つて、デパートなんかの飾り付けの実習に行つてうれしかったが、でも当時、男の憧れの職業はやはり飛行機乗りでした」
そうでした。

「こんな経験をしました。当時、満州関東軍の少年飛行兵の試験を受けに行く友人につきあつて、飛行兵の試験についていたところ、友達は落ちて自分が受かったんです(笑)」。合格したことは父には内緒でしたが16年5

国を守ると言う意味

Q 殺伐の幕末と、混乱平成の現代を重ね合わせる見方があります。貴重な「戦争」を体験した世代として、今の世の中に対して思われること、感じることとは？
「アメリカであらうが中国であらうが個人同士の恨みはない。戦争というのは結局、やられ損、不運だということです。龍馬たちも二十歳そこらで勤王党に入つて戦乱の時代を駆け抜けているが、志願して戦争に行つたわしらも、時代を生きた残党みたいなものだと思つてあります」

Q 幕末の人の気持ちが分かるかと？
「そうですね。おこがましいけれど、幕末の時代に生まれた人らはスケールが小さいわね。なんせ土佐藩の戦い。以蔵にしろ半平太にしろ、天誅をやつたが土佐藩のためなんです。しかしわしらは日本のために全世界を相手に戦争になつたがやき。第二次大戦ゆつたら全世界ぞね。その比較でゆつたら、幕末らあは、まことほつそいわよ(笑)」

Q 幕末はスケールが小さいですか(笑)
「そうですね。龍馬が土佐勤王党から出て以蔵を連れて千葉重太郎のところに行つて、勝麟太郎を斬りに行つて、いや待てよ、こりや違つぞと勝の弟子になつて、海援隊をこしらへたという、その気持ちはよくわかるが、なぜなら日本らあ今、見てみい。丸腰じゃろう？。自衛隊があるというても、日本の国を守るの国民の義務だと戦争を体験したわしらは思うのよ。憲法九条あるきゆうたち、そんなもんは無益なもんよ。三国同盟不可侵条約を結んでおきながら、攻め込まれて日本はいながらにして戦争でやられたがです。だから、以蔵に自分を重ね合わせるところもある。以蔵も龍馬も、純粋な気持ちで国を守らねばならぬという気持ちだったんじゃないかとね」

月には東京陸軍航空学校から入学通知が届いて、怒られると思つたけれど親父は怒らず「学校なら行け」と言つてくれました。しかし、その年の12月には太平洋戦争が始まつて、入校したのは結局翌年。私は長男で姉と妹が二人。親族会議で母が「長男は絶対に戦争にやらん」と怒りました。「うちには代々養子の家系じゃ戦争に行つたら死ぬき行かん」と。しかし祖母が「そりゃあ本人の覚悟じゃ、行かせなさい」と言つた。当時の陸軍学校は滋賀の天津と東京に分けて教育しつたんです。私は天津にある陸軍病院の兵舎で教育を受けました」

Q 陸軍学校の教育についてメディアの情報とくらひの知識で、厳しさなど想像の世界ですが、実際体験されてどうでしたか？
「適性審査があつてね。操縦は宇都宮、通信は水戸、整備は埼玉の所沢に分かれて実地訓練に入るんですが、私は通信だったから水戸の陸軍航空通信学校に行きました。その後東京の市ヶ谷、中尉とか大尉とか陸軍大將のいる作戦本部の通信部に配属されてびつくりしました。大きな世界地図を掲げた本部の司令室は今でも覚えています。司令室というのは鉄筋でできた厚さが三メートルぐらいの壁が曲がりくねつた先にある。これは爆風が来ても内部までなかなか届かない仕組みで作つてあるんですよ。」

「わしらは飛んでくるB-29を撃ち落す役目じゃ。一度に300機ぐらい飛んで来よう。爆発したら爆風よりも飛んでくる破片方が怖いんです。サイレンからB-29が来る」という通信暗号を通信班で傍受して、暗号解読班が解読する。ツイッターと毎日夜も昼もなく傍受に明け暮れました。もちろん日本の交信もアメリカには傍受されているので、その対策として乱数表というものがあつてね「114は上空」とかそういう信号に、毎日乱数表を足してから114を打つ。そういう風に攪乱して通信してました」

「その後、水戸の学校に戻り、後輩を教育す

たくましい 国づくりが不可欠

Q 龍馬という人物について言えば？
「龍馬というのは、ありやあ、要領のえい男。暗殺されてなかつたら、そこそこの要職についたらと思うね。以蔵も生きて何ぞや、剣の達人、それこそ道場でも開いて何ぞや、つたりしたんじやないろうかと思う。戦争でいろいろ見てくると、生き死には運命だと思ふようになる。人間、生まれ落ちたときから運命づけられちやうね。航空母艦がやられて燃料が漏れたら、数分も経たないうちにその母艦近くの海に落下する。そんな悪条件の中でも救出される者もおる。近江屋の龍馬も慎太郎も以蔵も運命づけられちやうたと思ふ。あの剣の達人が油断したがやろうかねえ。あそこにも以蔵が同席しちやうたら、龍馬も慎太郎も助かつたろうよ。龍馬が生きたら日本も変わつちやうたろうにねえ」

Q 岡田さんは平和の尊さを現代に伝えるもつ最後世代ですね。
「わしらは「おまえの命は二銭五厘」と言われた世代です。一銭五厘というのは今でいう50円、ハガキ一枚の値段。ハガキで徴兵されて当時の給料は4円。上等兵になつて13円。当時コーヒー杯が10銭の時代です。今の世の中、生活はよくなった。金出せば食うものは何でもあるし、しかし自分さへ食べればいいという人間ばかりになった。昔は人と人がもつと助け合ひつたもんじやが、今はもうそんな人はおらんつた。こんな田舎でも、隣は何をする人ぞ、です。」

でも、こういう時代やからこそ、戦争というのはどういうもんか子供らに話しかけられないかん。戦争はいかんぜよ。戦争はあみじめなものはない。平和がよいということも教えないかん。今の日本のこの平和も、アメリカの抑止力の上に成り立つ平和です。抑止力が効かんかったら、そりゃあすぐに戦争に巻きこまれる。一発の弾で戦争が始まる。龍馬が言つたように、外国と対等に交渉できるたくましい国力を作らないかん時期ながじやないでしょうか」

こぼれ話

― 犬歩棒当記(三) ―

寺田屋遭難の一件

― 中井弘の書簡 ―

京都国立博物館 宮川 禎一

筆者は千葉佐那の関係で宇和島には縁があるが、その宇和島藩に関わる話題をひとつ。

慶応二年二月二十三日深夜、龍馬は伏見の寺田屋で幕吏の襲撃を受けたが、その様子を記した書簡が宇和島にあるのだ。研究者はすでにご存知とは思いますが、改めて紹介しよう。

手紙の日付は慶応二年二月三日なので事件の十日後。書いたのは薩摩脱藩で宇和島藩の情報係であった中井弘(変名田中幸介)である。宛先は宇和島藩の家老松根図書。簡条書きの手紙の一部に寺田屋での事件が記されている。

「先廿三夜、於伏見船問屋寺田屋におひて土藩坂本龍馬並長人某等一泊之處、伏水奉行林肥後守手ヨリ与力同心七八十人刀剣を以取圍ミ候所、坂本直二少茂不動、六眼鏡を放ち掛、寄手少々退き候を見すまし、屋根を傳ふて逃去り申候。尤兼而良馬之婦人寺田や二召置候を召連、三人共二行方不知相成候事。幕吏四五人即死。竜人龍馬と接戦いたし、良馬二手を負せ候付、御扶持米貳拾俵御褒美有之候事。

坂元行衛不相分、依而薩邸江潜

居いし候哉の風聞にて候。」

(出典は宇和島・吉田旧記第七輯「松根図書関係文書」平成十一年)

驚くほど詳細で正確な情報である。実に興味深く、考えるべき点の多い内容をもっている。

幕吏の死者が四五人であること。龍馬が長人(三吉慎蔵)と婦人(おりよう)と共に逃げたこと。龍馬に傷を負わせた幕吏に褒美が出たこと。薩摩藩邸潜伏のうわさ、など。

中井弘はどこで誰からこの事件の情報を知ったのか?そしてなぜそれを宇和島に知らせたのか?この記述の前後には長州処分問題、橋慶喜と幕府の確執、桂小五郎の入京、会津藩の動き、薩摩藩要人の動きなど、現在から見ても当時の京都情勢の重要な要素が漏れさず記載されているのだ。その中で寺田屋の一件がどうして報じられたのだろうか?あるいは中井は龍馬による薩長提携の動きをすでに承知の上で手紙に事件のことを盛り込んだのではなかろうか。

後藤象二郎と親交をむすび大政奉還を陰で支えた中井弘。維新史の名脇役である彼の情報通ぶりを示す貴重な手紙である。



宇和島城天守閣

コラム・龍馬のこと

龍馬のルーツは

現代龍馬学会会長
江上 英治

幕末、急転する時代の流れの中を烈風のごとく駆け抜けた坂本龍馬。彼の思考は直線的な武士道でもない。彼の人間性はどこに由来したのだろうか。

9月1日、商用で京都へ赴いた。正午前、ぐんぐんと車の温度計は上がる。外を少し歩くだけでも大汗である。午後1時の気温は、なんと37度を示していた。

坂本家の先祖については様々な話がある。私は、友人を介して琵琶湖東岸の家紋の分布集計を依頼していた。さすがに東西流通の分岐点、多種多様な家紋が点在する。

そもそも家紋とは、平安中期以降、藤原一族を中心に家柄を重んじる風習から生まれた。徳川の平和な時代に至るや、従来の敵味方を明示する武具品、旗、幟、馬標などは必要がなくなり、おもに威儀を正す目的に用いられるようになった。

坂本家の家紋である『違栴桔梗紋』の違ひ栴は、二つの栴を組み合わせたものであり、近江、長浜地方にかけての造り酒屋にあるという。

翌朝長浜を出発し、県道2号線を近江八幡へと下っていく。途中、彦根城が山腹にみごとに景観をなしている。近江八幡へ着くやいなや、散策を開始した。町の保存について、町民がよく理解しているのがわかる。あまりの暑さに、うちわを片手に高台に登ってみた。なんと開けた町並みが碁盤の目ではないか。この時代は敵が攻め入るのを防ぐ為に迷路にするのが常套である。この近江の町は豊臣秀次が、安土からすぐの葦が生い茂る湿地帯に町を造ったといわれる。

秀次は天下人となった秀吉の後を継ぎ、より強大な国づくりのためにこの町を興したのではないだろうか。麓から観ると水路があり、溜池を通り、琵琶湖へと続いている。この町に理想の経済都市を造ろうとした秀次、そしてその意志を継いだ近江の商人たちは全国へ流れ、その商家の訓を伝えて行ったのではないだろうか。



『家督断絶は盗人の百倍の罪』という商家訓があるこの地方で大手を振って歩くことのできなくなった商家の一族が、一隻の舟に家財を積み、琵琶湖を抜けて淀川を通り、海を伝って土佐の地へやって来たとしても不思議ではない。

“話してみるかよ”

「海を見ろ」

現代龍馬学会会長
永国 淳哉

坂本龍馬記念館の駐車場の最上段に、本年4月「浦戸湾の碑」が除幕された。

そこには自然保護活動家の故山崎圭二先生の「ゆたかになること」の一節が刻まれている。龍馬の生家のある高知市上町に住まいされていた山崎先生は、「俺も、誰にも負けんばあ龍馬好きよ」と、いつも私が訪ねると龍馬談義をしていた。その日は、桂浜の龍馬像の話だった。

「本山白雲先生が原型を作り、龍馬の姪・春猪に見せたが、“目が気に入らん、龍馬さんは、もっと優しい男だった”と、何度か顔を作り直させた」という逸話から、話が飛んで“美人の条件と距離”というメモを書いてくれた。

「そのひと女を、美しいと思いました。けれども、彼女の顔も、虫めがねで見たら毛穴がありました。」

迫力満点の“龍馬大接近”。

桂浜のやぐらに上がれば、龍馬の“毛穴”でなく“耳穴”から“鼻穴”までカメラに収めている人がいる。NHK大河ドラマ「龍馬伝」で、“イメージ龍馬像”人気は週ごとに高まっている。子供でも「龍馬知っちゃうぜ」「龍馬の恋人も全部知っちゃう」と鼻高々。まさに國中、龍馬に“大接近”だ。もし山崎先生がここに居たなら、こう言うのではないかと。

「大いに接近しなさい。しかし、“毛穴”を見ても意味がないですよ。その面構えから腰の据わりよう、それに龍馬の目線、そうです“思い”に接近しましょう。あんまり近づきすぎると、ピントが合わなくなる。その時は、背景の海を見て調整しなさい。そう、海を見なさい。」

要は、人生自分の目線、哲学を持ってという教えだと、肝に銘じている。

高知県立坂本龍馬記念館

〒781-0262 高知市浦戸城山830

TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015

<http://ryoma-kinenkan.jp>